

中内 潤 なかうち じゅん



流通科学大学 学長

石井淳蔵前学長の退任に伴い、4月1日付で中内潤が学長に就任した。新学長は1955年生まれ。1978年慶應義塾大学法学部を卒業後、慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程を経て、1984年博士課程後期課程を修了。商学博士。一方、1980年株式会社ダイエー入社、1989年同代表取締役副社長に就任、1999年株式会社ダイエーホールディングコーポレーション代表取締役社長を経て現在に至る。

流通科学大学は1988年創立。現在は、商学部、経済学部、人間社会学部の3学部からなり、2015年度に独自の初年次教育「なりた自分発見カリキュラム」を導入。今の学生の多くは「大学に入る」ことが目的であり、将来の明確な目標を持った者が少なく、就職意識も低いという現状から、強制的に学ばせるという大学の姿勢をやめ、さまざまな課題や企業人・卒業生との交流の機会を通して、将来何になりたいのかを考え、見つけるためのカリキュラムとした。将来の夢が見つかれば、何を学ぶべきかを自ら気付くことができ、成長の度合いも変わってくる。

基本の考え方は「学生の成長」。新学長は「大学生だから、一度の失敗で諦めずにとんどん走ってくれたらうれしい。いろいろな経験を通じて、将来の自分を見つけてほしい」と抱負を語る。



教育の明日を探る

日本私立大学連盟では、当法人の活動、私立大学の教育研究、管理運営などにかかるさまざまな情報および国の高等教育政策にかかる動向などの社会への発信とともに、情報共有の推進を主目的として、今年度も「私立大学フォーラム（全4回）」を開催します。



お申し込みはこちら
※またはWEBで「私大フォーラム」と検索ください。

第2回（仙台） 10月1日（土）13：00 東北学院大学
政治なき教養は空虚であり、教養なき政治は盲目である

第3回（大阪） 11月5日（土）13：00 関西大学
学問するよろこび

第4回（福岡） 12月10日（土）13：00 福岡大学
大学入試～私立大学の改革～

※各回無料、定員予約制

加賀裕郎 かが ひろ郎 同志社女子大学学長。'84同志社大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。博士(哲学)。著書『デュール自然主義の生成と構造』ほか。'10から現職。

是永 駿 これなが しゅん 立命館アジア太平洋大学学長。大阪外国語大学中国語学科卒、同大学院修士課程修了。博士(言語文化学、大阪大学)。専門是中国語・中国現代文学。

辻 恵介 つじ けいすけ 武蔵野大学人間科学部教授、精神科医。'98自治医科大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。主著『犯罪心理学を学ぶための精神鑑定事例集』ほか。

Peter Bernick ピーター バーニック 長崎大学障がい学生支援室助教。Simmons School of Social Work、ソーシャルワーク修士、マサチューセッツ州認定臨床ソーシャルワーカー。

井上真郷 いのうえ まさむら 早稲田大学学生部副部長、保健センター所長、理工学術院教授。京都大学医学部卒。博士(医学)。京都大学医学部附属病院耳鼻咽喉科、理化学研究所などを経て現職。

兼高聖雄 かねたか せいお 日本大学藝術学部教授。'90慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程修了。社会心理学・メディアコミュニケーション論専攻。主著『コミュニケーション学入門』ほか。

松本宏太 まつもと こうた 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付参事官(障害者施策担当)付主査。'15から現職にて、障害者差別解消法の関連施策などを担当。

小越真一朗 おこしん いちろう 独立行政法人日本学生支援機構学生生活部障害学生支援課長。

柏倉秀克 かしわら ひろかつ 日本福祉大学社会福祉学部教授。日本福祉大学大学院社会福祉学研究科修了。

博士(社会福祉学) 桜花学園大学を経て、'11から現職。

近藤武夫 こんどう たけお 東京大学先端科学技術研究センター准教授。博士(心理学)。広島大学教育学部助教、米ワシントン大学計算機科学工学部客員研究員を経て現職。

伊井 明 いい あきら 龍谷大学財務部管理課課長。龍谷大学経営学部卒。'96龍谷大学に入職、'11から現職。

原 正福 はら まさよし 学校法人立教学院人事部人事課。'99立教大学社会学部卒。'04立教学院入職。リサーチ・イニシアティブセンター勤務を経て、'12から現職。

松前義昭 まつまえ よしあき 学校法人東海大学理事長。'78東海大学工学部卒。工学博士。日本電気株式会社入社後、'00東海大学教授、'03九州東海大学学長、'14から現職。

高 龍秀 たか りゅうす 甲南大学経済学部教授、教育学習支援センター所長。博士(経済学)。甲南大学経済学部長、同大学企画室参与を経て、'16から現職。

相生芳晴 あいおい よしはる 学校法人上智学院IR推進室(兼情報システム室チームリーダー)。IT企業から転職後、事務局学事センター勤務を経て現職。

林 裕佳 はし ひろか 学校法人上智学院IR推進室(兼総務局経営企画グループチームリーダー)。上智社会福祉専門学校、上智大学大阪サテライトキャンパス勤務を経て現職。

山本幸一 明治大学教学企画部評価情報事務室。明治大学大学院ガバナンス研究科修士課程修了。'94明治大学に入職。共著に『大学マネジメント改革総合事例集Ⅰ』など。

上杉道世 大正大学理事長特別補佐・質保証推進室長。京都大学法学部卒、'74文部省入省。各局を経験し、東京大学、慶應義塾大学を経て'15から現職。主著『大学職員の近未来』など。

岡田弘行 学校法人関西大学常任理事、大学本部長。'77関西大学経済学部卒業後、入職。入学試験部次長、大学事務局次長、学長室長を経て現職。「地方の時代」映像祭事務局長。

田中有紀 立正大学経済学部准教授。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士（文学）。'12立正大学経済学部専任講師、'15から現職。主著『中国の音楽論と平均律』など。

森田せつ子 姫路獨協大学看護学部長。'03名城学院大学大学院人間生活学研究科博士課程修了。博士（学術）。名古屋大学を経て、'16より現職。主著『テキスト母性看護Ⅰ・Ⅱ』。

規矩大義 関東学院大学学長、理工学部教授。'93年九州工業大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士（工学）。入試センター次長、理工学部長などをを経て、'13から現職。

木下達文 京都橘大学現代ビジネス学部教授、地域連携センター長。'90成城大学大学院修了。'01から京都橘（女子）大学所属。主著『文化面から捉えた東日本大震災の教訓』など。

鈴木義夫 明治大学就職キャリア支援事務室。学生相談や支援行事の企画・運営などを担当。'05明治大学政治経済学部卒。明治大学付属明治高等学校・中学校事務室を経て、'10から現職。

関口八州男 早稲田大学学生部学生生活課長。'88早稲田大学入職。総長室'125周年記念事業推進室課長、総務部総務課長、総長室秘書課長を経て、'13から現職。

杉本健爾 久留米大学商学部卒。ふたば書道会師範。大学卒業後、企業勤務を経て30歳から本格的に書道を始め、書道家・武田双雲に師事し、師範免許を取得。現在は、自身の書道教室や早稲田大学エクステンションセンターで指導のほか、ペン字講座や講演活動など幅広く活躍中。

山岡三子 フリーアナウンサー。学習院大学卒。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科博士後期課程修了。博士（社会デザイン学）。名古屋短期大学客員教授。

〈お断り〉本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

会長の動き 2016年
7月・8月

● 7月5日(火)
第3回常務理事会、第5回理事会に出席

● 7月6日(水)・14日(木)・15日(金)

新・旧会長挨拶回り(文部科学大臣、文部科学省関係者、財務大臣、国会議員)

● 7月19日(火)

第4回常務理事会、第6回理事会に出席

● 7月20日(水)

全私学連合代表者会議に出席

全私学連合の代表に鎌田薫(早稲田大学総長)連盟会長が選出された。

● 7月25日(月)

「平成29年度私立学校関係政府予算に関する要望」、「平成29年度私立学校関係税制改正に関する要望」および耐震関連の予算要望などを文部科学大臣ほか提出
平成29年度私立学校関係政府予算に関する要望の「私立大学」にかかわっては、「高等教育に対する公財政支出の低位性の改善」や「私費負担依存からの脱却」、「不合理な国民間格差の是正」等を要望の骨子として、①私立大学経営の健全性向上のための支援の拡充・強化②安定した修学環境確保のための経済的負担の軽減

に向けた支援の拡充・強化③学生の主体的な学びの推進のための大学教育の質的転換、多様な人材輩出のための大学改革推進に向けた支援の拡充④地方創生のための支援の拡充⑤安全・安心な教育研究環境の実現ならびに熊本地震・東日本大震災の復興、被災学生のための支援の継続・拡充」などを要望した。

● 8月3日(水)・5日(金)

平成29年度私立大学政府予算・税制改正要望および平成28年度補正予算について国会議員へ陳情

● 8月23日(火)

「科学技術予算の抜本的拡充に関する要望」に向けた打合せ会に出席

● 8月30日(火)

松野文部科学大臣等へ表敬訪問

開催報告

● 7月29日(金)～30日(土)

「第1回財務・人事担当理事者会議」開催

「私立大学におけるダイバーシティ」をテーマに開催。63法人89名の参加があった。

● 8月2日(火)・3日(水)

● 8月4日(木)・5日(金)

「FD推進ワークショップ」【新任専任教員向け】開催

「大学教員の職能開発とFD」をテーマに、模擬授業の実践と参加者同士の意見交換を中心として開催。両日程あわせて39大学92名の参加があった。

● 8月24日(水)・26日(金)

「監事会議」開催

「監事の役割と監査機能の実質化」をテーマに開催。62法人76名の参加があった。

● 8月29日(月)～30日(火)

「教学担当理事者会議」開催

「多様な新しい能力を持つ入学受入れ、そして人材養成のための高大接続改革」をテーマに開催。54法人61名の参加があった。



私大連盟「FD推進ワークショップ」

座談会 「新たなインターンシップの意味付け」

特集 「大学の宗教系学部・学科の現在 (いま)」

小特集 「保健室の今後」

表紙・大学点描 宮城学院女子大学 だいがくのたから 東洋大学

クロースアップインタビュー：

「渡辺 美和子さん (株式会社渡辺教具製作所代表取締役会長)」

編集後記

◆本号の座談会と特集は、いわゆる「障害者差別解消法」が本年4月に施行されたことを受けて、改めて各方面から大学の障害者支援・対応などのご意見をいただいた。

座談会では、特に発達障害を取り上げた。発達障害は、障害自体が気付かれず、本人も気付かないこともある「難しい」障害である。それが故に、「一口に「支援」といつても、その対応も実にさまざま

な問題や苦労が多い。われわれは、障害者に限らず、マイノリティーに対して、無知なるがゆえに、無意識に、無自覚に、言葉や行動で相手を苦しませたり悲しませたり傷つけたりしていることがある。根拠のない「誤った」対応をしたり、また、「恐れ」たり、と。

無知は偏見を生み、結局は差別を助長させる。まずは「知ること」——本号の座談会・特集はその一助にしたいのだけたのではないだろうか。

また、「知ること」、それとともに不寛容社会といわれる

日本において、もう少し多様性を認め、寛容な心・意識を持つことも大切なことであろう。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・関西学院大学高大接続センター入試課長 筒井 弘幸)

◆IR活動を通じて大学の組織や学生の状況の「見える化」によってあぶり出された分析を目にすると、自分がそうだと思っていたことが印象や感覚、あるいは感情から決めていたものだったことに気付くことがある。組織内で「IRマインド」が醸成されれば、問題解決に向けた議論をより冷静かつ効率的に始められることになるだろう。

今回の小特集を通じてさらに気付かされるのは、IR活動が部署間のコミュニケーションを大いに促進するという点である。分析によってもたらされるシンプルな驚きや納得により、担当業務以外にも関心を持つこととなり、部署間にまたがる課題に対する当事者意識が芽生え、一部署ではなく大学全体の課題なのだという認識が得やすくなる。そうなると、課題を各々の関わりからどうアプローチして

いくのか、より実感をもって取り組めるのではないか。

さまざまなテクノロジーの駆使によって発展しつつあるIR活動だが、最後はつやあり人と人のつながりや共感力が大切になることも再認識できた。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・上智大学総務局SGU事業推進室 中山 映)

◆インクルージョン。本号のインタビューと座談会に共通する概念だった。得意か苦手か、上手な下手なが、内容がさまざまであるが、誰もが生活の中で直面するものだ。インタビューは書道家の杉本健爾さん。美しい文字とは、というお話の過程で、「上手はたくさんある(＝下手を排除しない)」というフレーズが印象に残った。

座談会では、障害の有無にかかわらず、皆が居心地よく感じるユニバーサルデザインへの期待も語られている。2時間を超えて議論白熱だったが、大学教育でもこれまでの支援や対応にとられず、不得手を包含する、一歩踏み出した工夫、改善が求められている。(日本私立大学連盟事務局 権藤 和代)

[illegible]

©無断転載はご遠慮下さい。落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

